

New Engl J Med における訂正論文のインパクト

向田厚子

金沢医科大学図書館

背景と目的：

論文発表後何らかの訂正をする論文に対して、我々はどのような評価をすればよいのだろうか。一般的なイメージとしては信頼性に欠ける論文といえるかもしれない。しかし、ヒューマンエラーの観点からすると、人間は必ず間違いを犯すもので、どんなに精度を高めても訂正論文が生じるのは必然的なことかもしれない。

ここでは、雑誌の評価指標であるインパクトファクター（IF）を尺度に用い、医学系総合誌でトップの IF 値である New England Journal of Medicine (NEJM) を例に、訂正論文は引用頻度に差異があるかどうかを調査する。また、そこから見える特徴についても明らかにする。

方法：

NEJM の IF 値が過去 10 年(1993 年～2002 年)で 1 番低い 1995 年分(22.412)と 1 番高い 2002 年分(31.736)とを利用し、それぞれ過去 2 年の論文(1995 年分は 1993 年と 1994 年、2002 年分は 2000 年と 2001 年)において後に訂正情報(Correction)を掲載した論文を冊子体からピックアップする。そして、Science Citation Index データベースを使って、IF 値の算出と同じように、1993-4 年の訂正論文が 1995 年にどれだけ引用されたかを、同じく 2000-1 年の訂正論文が 2002 年にどれだけ引用されたかを個々の論文ごとに検索する。そして標本である訂正論文の平均引用回数と母平均である IF 値とを比較する。

結果：

1993-4 年の有効訂正論文数は 93 件で、引用平均は 18.839 回であった。また引用回数範囲は 0-217 で、標準偏差は 32.962 であった。一方、2000-1 年の有効訂正論文数は 93 件で、引用平均は 27.720 回であった。引用回数範囲は 0-313 で標準偏差は 48.874 であった。検定(有意水準 1%)により、それぞれの IF 値と有意な差は見出し得なかった。

また、NEJM の訂正情報は、過去 10 年間に於いて全論文の 10.7% から 16.3% の割合であった。そして、論文が発表されてから訂正情報が出されるまでの期間は、1993-4 年では平均 21.41 週間後、2000-1 年では平均 14.57 週間後であった。

考察：

NEJM の訂正論文は、必ずしも引用頻度に違いがあるとは言えなかった。しかしながら別の言い方をすれば、訂正論文は訂正をしない論文と同じように引用され、学术界に影響を与えているといえる。

また、NEJM では冊子体における訂正情報掲載までの期間が短縮したことや、PubMed における訂正情報掲載率が前回調査時(医学図書館 1999;46(1):62-9)より向上したことが判明した。一方で NEJM の Online 版は、冊子体に掲載されている訂正情報が、必ずしも全てリンクされたり修正した形で載っているわけではないことも明らかになった。